

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp

TEL03-3261-9007

ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

FAX03-3261-5453

2016年6月10日（金）

第631号 本号2頁

6・5 大行動 右翼の集会妨害警察見のがし 警察庁に申し入れ・抗議

総がかり行動実行委員会

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は6月9日午後、先の「6・5全国総がかり大行動」に対し、右翼の宣伝カーが大挙して押しかけ、大音声で集会を妨害した問題で、国会内で警察庁に申し入れ、抗議しました。

6・5全国総がかり行動では、右翼集団が国会正門前（並木通り）、農水省前、日比谷公園かもめの広場の3つのステージ周辺に宣伝カーで押しかけ、この妨害に対し、主催者は繰り返し現場警察官への対応要請をせまりましたが、放置されていたものです。並木通りでは地下鉄桜田門駅から会場に向かう参加者や通行人に対し、長時間にわたって大音響で集会への中傷宣伝をし続けました。農水省前では、ステージとした組合の宣伝カーの後ろに宣伝カー2台が突っ込み、宣伝カーから下車した右翼のメンバーが参加者に突進するなどの事態となりました。かもめの広場のステージにも介入し、大音響で妨害、突発性難聴になったスタッフも出ました。

申し入れ・抗議で総がかり行動実行委員会側から、当日の右翼の行動と警察の対応を指摘するだけでなく、警視庁警備課が一週間以上前に、右翼介入の情報を得ており、実行委員会側に警察に任せると通告していた経過があったことを指摘しました。これに対し警察庁側は、「正門前だけが人などが出ないよう最重点を正門前に置いたので、霞が関は手薄になり、機動隊の増派も試みたが対応が不十分だったかもしれない」と認めましたが、「道路使用許可を得ているものに対し簡単にはやめさせられない」と言い訳を繰り返しました。

申し入れ・抗議に参加した平井憲法会議事務局長は「5・3憲法集会では、右翼の妨害許さず、集会参加者との接触や事故がおきないように相当離れた箇所で右翼の宣伝カーの通行を規制することなどを警視庁警備課に申し入れ、その結果、実際にしかるべき措置が取られ混乱なく集会を終えた」「『安全』が警備の基本方針であるというならそのとおりに行動すべきででないか」と述べ、5・3に際して警視庁は、伊勢志摩サミット警備の関係で手薄になるとし、5・3集会警備の対応をしぶっていた事情やその時点では右翼の具体的動向については不明としていたことなども紹介、今回は「手薄」となる条件はなく、また事前に右翼の介入を明確に把握していたのに対応ができなかったことについて、当たり前ことができず、直近の教訓も生かせないでどうするのかと厳しく追及しました。これには警察庁側は明確な回答を避け、今後には生かすとのみ答えました。

警察庁側は、「指摘されたことを庁内で共有し、警視庁に対してもしっかりと指導したい」「今後も必要に応じて実行委員会との協議に応じる」と述べました。

この日の申し入れ・抗議には総がかり行動実行委員会から、憲法共同センターの盛本全労連常任幹事はじめ、1000人委員会、解釈で憲法9条壊すな！実行委員会から、さらに内田弁護士、杉浦弁護士ら合計10人が参加、神本参議院議員が立ち会いました。警察庁長官官房総務課長、警備局警備課長ら6人が対応しました。

守れ！報道の自由 政権の暴走監視とチェック、ブレーキを 法律家6団体が「安倍政権と報道の自由」集会

「安倍政権と報道の自由—安倍政権による総合的メディア戦略と民主主義の危機 私たちは何ができるか」が9日、国会内で開催されました。主催は改憲問題対策法律家6団体連絡会（自由法曹団、日本民主法律家協会など）。集会は、立ち見や床に座り込んで参加するなど超満員となり、問題への関心の高さを示しました。

集会では岸井成格（しげただ）毎日新聞特別編集委員・TBS特別コメンテーターが講演しました。

岸井さんは、自らがTBS「NEWS 23」でアベノミクスへの批判的世論を取り上げたことに対し、同番組に出演していた安倍首相から批判されたこと、高市発言に代表される安倍政権・与党によるメディアへの介入の強化について、「息苦しく、きな臭い。このままでは言論の自由、報道の自由が窒息し、自粛・萎縮を生む」「暴走を始めている安倍政権に対し、メディアがチェックしなければたいへんなことになる、とんでもない国にしてしまう」と批判しました。

安倍政権は過去2回の国政選挙で、アベノミクスや消費税などを前面にだし争点隠しをおこない、選挙が終わると特定秘密保護法や武器輸出自由化、集団的自衛権行使容認の閣議決定、安保法制などとやりたい放題。今回の参院選でも消費税増税再延期などをもちだし、三度同じような争点隠しと選挙後の改憲をたくらんでいる、と指摘しました。

そして、戦後のメディアが、国民を戦争に追いやっていった悔恨、自責から、「権力は必ず腐敗し、時に暴走する。権力を監視し、暴走にはブレーキをかけるのがメディアの使命」という格言としていること、また自らのスタンスとしていること強調し、市民による攻撃への反撃の後押しへの期待を述べました。

集会ではジャーナリストの金平茂紀さん、同青木理さん、塚田朋弘新聞労連書記長らが発言しました。「改憲が争点となる参議院選挙を控え、安倍政権によるメディアへの介入とメディア側の『自粛』が懸念される中、市民は、権力を監視し権力の暴走をくいとめるメディアを応援し、メディアに携わる人々と連帯して憲法の保障する報道の自由を守り抜いていくことを誓う」などとするアピールを採択しました。

当面の活動日程

6月19日（日）

14:00～15:30 国会正門前

怒りと悲しみの沖縄県民大会に呼応する

いのちと平和のための6・19大行動

**共催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会
「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会**